重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）	社会的弱者が不安なく歩けるよう、バリアフリーが施設や道路に行き届いている	
施策名	バリアフリーのまちづくりを推進する	No.45

年度	平成27年度
責任部長	建設部参事
主担当課長	まちづくり課長
関係課	建築住宅課、道路課、公園緑地課

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標	指標のめざす方向	現状値	実績値					目標値
		H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後
		H24	H25	H26	H27	H28	H29	10年後
社会的弱者やその家族が安心して外出できると思う人の割合（%）	↗	16.1	13.4	15.6	16.2	16.1	16.1	23.5
		16.1	17.4	19.8	20.4			31.1
バリアフリーに対応している公共建築物の累計(施設)	↗	—	—	—	—	—	—	—
		12	15	16	22			15
バリアフリーに対応している歩道の整備延長（km）	↗	28.48	31.84	34.48	36.02	36.71	37.75	35.23
		37.75	38.08	41.42	43.44			41.97

2. 外的要因（世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等）

高齢社会対策や共生社会の実現としてユニバーサルデザインの「どこでも、だれでも、自由に、使いやすく」という考え方に基づいた公共交通機関、建築物、公共施設等のバリアフリー化に対する関心が高まっている。「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」（平成18年法律第91号）に基づき、平成18年12月に制定された「移動等円滑化の促進に関する基本方針」においては、平成23年3月31日に改正され平成32年度末までに3,000人／日以上の旅客施設をすべてバリアフリー化する等の新たな目標が定められた。

3. めざすべき姿に対する現状評価（まちづくり指標や外的要因等からの評価）

現状評価	A 改善傾向	「社会的弱者やその家族が安心して外出できると思う人の割合」は昨年に引き続き増加傾向にあり、更新時期を迎えた施設がバリアフリーに対応した形で整備されていることが影響しているのではないかと思われる。 「バリアフリーに対応している公共建築物の累計」や「バリアフリーに対応している歩道の整備延長」についても着実に実績値を伸ばしており、都市基盤に関する施設整備は年々進んでいると言える。

評価がB・Cの場合

4. 事務事業群に対する評価（行政活動の評価）

長期成果（事業群①）	長期成果（事業群②）	長期成果（事業群③）	長期成果（事業群④）

評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）の一歩手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。
評価	
次年度の改善計画	

＊＊

総合計画推進市民会議による現状評価（※総合計画推進市民会議が発表した「重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）の評価書」から転記）

評価	B 停滞	各指標とも改善傾向であるが、指標1は目標値に到達しないのではないかと思われる。公共施設や市中心部の道路はバリアフリーが進んでいるが、バリアフリー化された点と点を結ぶ線において、まだ問題が多い。